Rural Mission Human Rights 農
農村伝道神学校後援会だより　NO. 95

「ストーン牧師と農村伝道神学校」（2013年10月19日）

桜美林学園キリスト教センター主幹、
本校講師　本田栄一

このたび講演依頼を受けて、アルフレッド・R・ストーン宣教師と農村伝道神学校とのかかわりを振り返り、彼は日本の農村伝道にどのような貢献をしたのか、確認する機会となればと思い引き受けた。

はじめに、なぜ、ストーンは農伝とかかわるようになったのか経緯を簡潔に述べる。戦後の混乱のなかで1946年1月、第1回農村伝道協議会が開催され、当時の教団の伝道局により立案された課題が協議された結果、「農村伝道25か年計画」としてまとめられた。その計画案のなかでも、喫緊の課題として教職養成機関の設置が求められた。そして、戦争中、機能を停止して国策の一旦を担う役割を果たした教職・指導者養成機関の呼称を改め、「中央農村教化研究所」（以下、研究所）として再開することが検討された。そして、この構想を推進するために戦前から農村伝道を担い、信頼を得ていたストーンが所長候補として就任を要請された。同時に、新たな研究所を開設するための候補地選びも始まった。

1947年12月、ストーンの依頼を受け、教団伝道局の木俣敏牧師は土地をさがし求めていたところ、現在の日野市多摩平に適した土地が見つかり、正式に契約する前に木俣は家族と引っ越して住み着いてしまった。その際、同じく伝道局に務めていた筆者の父本田清一、母登喜子も木俣から要請を受け、居を移した。ストーンも最適な土地だと考えていたが、強引なやり方には承服しかねていたようだ。しかし、彼はカナダ合同教会に掛け合って支援を仰ぎ、土地購入費を捻出した。法人格のない研究所に代わり、「在日本カナダ宣教師社団」の名義で土地の保存登記がなされた。

そして、2年後に私は当地で生まれた。当時ストーンが母をジープに乗せて産院まで送り、夫妻から山羊を贈られた感謝の思いとともに、水道も電気もない不便ななか学生の食事を作るのが大変だったという話を母からよく聞かされたことを記憶している。

現在、私は日野市多摩平にある日野台教会に出席している。住宅公団の団地の真ん中に800坪の敷地を与えられ、会堂と牧師館、幼稚園がある。この教会の始まりは1948年4月14日に行われた研究所の開所式後の日曜日、4月18日から始まった礼拝の集まりが出発点になっている。

講演会にて筆者

ちなみに農伝の名称は1948年に「中央農村教化研究所」として始まり、翌年1949年にかけて「教育部」が付記され、さらに「農村伝道神学専門学校」と改称し、その後、現在の呼称に落ち着くまでに学生と教員との間に侃侃諤諤の議論があったようである。

今回の講演では、ストーンの伝道活動を戦前の着任時から見直す機会と受け止め、生い立ちから遡って跡付ける作業を試みた。そして、確認できたことは日本伝道への熱い思いは若き日にすでに派遣されていたダニエル・ノルマンをはじめとする優れた先輩の宣教師との出会いを通してビジョンを与えられ、農村伝道に専心することが自らのミッションであるとの自覚を踏み固めていった足跡である。

戦後、ようやく落ち着いて北海道を拠点にして、これから開拓伝道に本腰をいれて取り組もうとしていた矢先に、1954年9月26日、青函連絡船洞爺丸の海難事故に遭遇し、52歳の生涯を終えた。ストーンにとってほんとうに無念極まりない人生の終わり方であった。願い半ば中途で断ち切られた人生は未完の問いを残しているように思う。ストーンが生涯をかけて、日本の農村伝道のなかで実現しようと願っていた思いと彼の残したレガシーを忘れないで心にとめて、どう受け継いでいくか考えることが彼の残した未完の問いに応えることになる。

旧校舎である「ストーン・メモリアル・ホール」はストーンの遺族からの申し出により、国鉄の賠償金寄付によって建設された。今回、ストーンと農伝とのかかわりを思い起こす機会を与えられ、あらためてストーンを記念して名づけられている学び舎が農伝の土台となり、歴史を刻んできたことを覚えて感謝したい。

ストーン記念館（校舎）ロビー

ストーン牧師肖像画

キャンパスレポート NO.14

貸し農場の畑を借りているおじさんのはなしを聞いて下さい。

農伝在住、カラス一家のはなし

カー助は３年ほど前にハナ子と結婚したらしい。学校に届けが無いので定かではないようだが、学生寮裏雑木林東－３番に在住している。

神学校には実習農場や貸し[redacted]、順調に行けば毎年季節折々の作物が豊かに収穫でき[redacted]しかし、カー助がそうはさせてくれない時がある。

キュウリもトウモロコシもトマトも「あさって頃が収穫のタイミングかな」と思っている翌日、カー助は必ずやってきて初生りを収穫して家族の元へ運んで行くようだ。

農作物や木の実など豊富な自然食に恵まれた家族にも、さすがに真冬の１～２ヶ月は厳しい。

深く重なる落ち葉や、積もった雪を分け、余り美味しくないらしい銀杏の実を探し果肉で飢えを凌いでいるらしい。時々、真冬に真っ白なギンナンの実を見つけることがある。銀杏は一家にとっての大事な非常食のようだ。

さて今年の２月中旬、借りている畑の様子を見に来たおじさんの前にカー助夫妻が現れた。おじさんはこの農伝の畑に来て、お昼のオニギリを食べるこの時がとても好きらしい。「この春は何を植えようかなー」と、思いながらおにぎりを一口したとき、頭の上で「カー、カー」と声がして、２mほど横に２羽のカラスが舞い降りた。

余程今年の越冬がきつかったのか、おにぎり欲しさに怖さも忘れておじさんに近づいたカー助夫妻だ。カー助と目が合った瞬間「おにぎりを少しくれ」とカー助が言った！確かに言った。

仕方なく少し分けてやったがそれ以来、おじさんが畑でお昼を食べる時には殆ど、彼らが共にいた。

春になってもカー助夫妻はおじさんのところによく来たが３月の終わり頃、カー助が忙しそうに枯葉や小枝を運ぶ姿をよく見た。

この頃になっても今年は食糧不足なのかカー助がよく来ては、しつこくおにぎりをねだられた。しかし、おにぎりをくわえてはどこかに蓄えるのではなく、巣へ直進していた。

今年の異常気象は春から始まり、毎年楽しみにして頂いているタケノコはかって無い不作でした。それでもタケノコ堀に賑わっていた４月の終わり、久し振りにカー助夫妻がおじさんの前に現れたが、木の上には小さい子が「カーカー」と澄んだ声で鳴いた。「やー生まれた子を見せに来てくれたのかー！ありがとう、可愛いねー」分けてやったおにぎりを木の上から「カーカー」とほしがって鳴いた。２～３週間こんなことが続きおじさんは生まれた子の名前を考えていたが、５月の連休明け以降あの澄んだ声で鳴く子は現れず、もとのカー助夫妻とおじさんの関係に戻った。

それにしても今年の異常気象は、雨が降らない（町[redacted]は）、暑い。７月、８月この異常気象にも負けないのは雑草だけで、野菜は枯れ、果物も育たず、栗も小さい。バッタも、スズメさえも今年は小さい気がした。カー助夫妻や今年生まれた子は大丈夫か？８月終わり頃から顔を見せない彼らが気になって仕方がなかった。

９月の中旬になってやっと雨の降る時があり、少しは農場が回復

したのだろうか。コスモスが花を咲かせ、甘夏柑が色づいた。
その頃、いつものようにおにぎりを食べていたおじさんの頭の上で突然カー助の声がして「あーやっぱりここはいいなー」と言う声がした。(気がした)「やーカー助何処に行っていたんだ！ハナ子は？」きっと、食糧のないこの地を離れて疎開していたのだろう、今日は生活が出来るか様子を見に来たのだろう。おじさんはすべてが分かった気がした。やがて柿が実り、ムベの実がなった。

農場には、いつもの実りの秋が訪れ、カー助夫妻は現住所に戻ったようだ。またしばらくは、彼等とおじさんののどかな付き合いが続くが、また冬がやって来るこの地で過ごせるだろうか。

「あーやっぱりここはいいなー」とカー助夫妻が思える地でありますように。おじさんはそう願っておにぎりをほおばりました。

農伝グッズ全品のリストをお届け致しました。

今まで１品１品工夫して仕上げ、皆様にお買い上げ頂きました農伝グッズは２２品種になりました。これからも長くご利用頂きたく「農伝グッズリスト」として皆様のお手元へお届けいたしました。どうぞ保存版としてお手元に置き必要の都度お求めください。この農伝グッズは、農村伝道神学校を知って頂く宣伝のため、多くの方々の参加によって出来上がった製品です。売上金のすべては農村伝道神学校への献金として捧げます。

農伝グッズリストの裏面が注文書になっています。記号欄と番号で商品を特定し、空欄に数量をお書き頂き、ファックスにてご注文下さい。注文書はコピーしてお使い下さい。ご不明な点がございましたら電話にてお問い合わせ下さい。

送り先をお忘れなくお書き下さい

＊ご注文の品や数量により、時間がかかる場合がありますので申し訳ありませんが余裕をもってご注文頂ければ幸いです。
＊今後も新しいグッズを開拓して参ります。アイデアや、制作に関心のある方のご参加もお待ちしています。

2013年度　農村伝道神学校後援会会計報告

2013年９月1日～10月31日（　）内の数字は回数で、金額はその合計です。

後援会献金（団体）

相模原教会 10,000
杉並教会 10,000
高輪教会 10,000
名古屋堀川伝道所 10,000
日本基督教団東京教区伝道部婦人委員会 10,000
日本基督教団東京教区東支区婦人委員会 13,000
能野伝道所 10,000
藤沢教会・藤沢大庭教会 20,500
合計8件
金額 93,500

後援会献金（個人）

秋山　憲兄 50,000
浅野　直人 5,000
東　寿子 2,000
岩髙　澄 10,000
角田敏太郎・真澄 5,000
景山　允男 5,000
菅野　哲彦 10,000
菊地　嘉昭 20,000
久保　博夫 5,000
小泉　晴子 5,000
佐治　和子 10,000
佐藤吉春・紀枝子 5,000
三宮　千枝 3,000
嶋貫　春江 2,000
白鳥律子・吉夫 10,000
高山　久郎 3,000
辻　建 3,000
中金　千里 5,000
永田　直子 1,000
西野　和子 5,000
服部千賀子 5,000
早川三南子 5,000
林伸吉・誠子 5,000
原　誠 5,000
原田　和子 3,000
土方満喜子 5,000
平本　順子 20,000
平本　善一 3,000
福居　幸子 10,000
福井　正治 2,000
福島　一夫 100,000
福島　静代 1,000
福本　光子 10,000
本田　栄一 70,000(2)
牧野信次・恵美子 10,000
松本眞理子 5,000
見満かおる 5,000
宗宮　進 3,000
柳田　緑映 10,000
山川　幹夫 60,000
山口里子・雅弘 10,000
合計42件
金額 511,000

記念日他献金（団体）

愛北教会 3,000
飯塚教会 2,000
生田教会 32,200
大泉教会 20,000
大泉ベテル教会 5,000
大阪聖和教会 5,350
大塚平安教会 10,000
小田原教会 44,952
片倉教会 5,000
上大岡教会 5,000
上鳥羽教会 6,000
軽井沢南教会 1,000
川崎戸手教会 6,000
行人坂教会 10,000
金城教会 10,000
國安牧師を囲む会 5,830
桑名教会 28,400
小石川明星教会 20,000
高座渋谷教会 32,000
交野教会 5,000
坂下教会 3,000
三本木教会 3,000
下ノ橋教会 10,000
信濃町教会 100,000
清水ヶ丘教会 20,000
周船寺教会 5,000
宿河原教会 5,000
新丸子教会 5,000
仙台北三番丁教会 20,000
祖師谷教会 5,000
茅ヶ崎教会 13,000
茅ヶ崎平和教会 4,000
鶴川教会 30,000
鶴川シオン幼稚園クローバーの会 17,400
名古屋中央教会 30,000
日本基督教団中部教区三重婦人部 5,000
野方町教会 20,000
野田教会 10,000
八王子北教会 22,000
原町教会 5,000
東梅田教会 20,000
日野台教会 20,000
富士見高原教会 10,000
松崎教会 20,000
松山山越教会 10,000
南豆教会 20,000
室町教会 5,000
横浜上倉田教会 5,000
横浜二ッ橋教会 10,000
四谷新生教会 11,000
林間つきみ野教会 5,000
霊南坂幼稚園 10,000
若松浜ノ町教会 5,000
稚内教会 5,000
合計54件
金額 745,132

記念日他献金（個人）

新井堅司・和子 5,000
氏原　淳一 10,000
大谷宏・述子 20,000
金井　良樹 10,000
樺澤　幸雄 3,000
上内　鏡子 2,000
菊地　泰 3,000
甲子　敏江 2,000
木下忠志・久美子 3,000
小林和明・恒子 3,000
近藤　清子 3,000
近藤　清志 5,000
斎藤仁一・隆子 5,000
鷲　美恵子 3,000
佐々木和子 5,000
佐藤喜美子 5,000
髙島　昭子 2,000
髙橋　幸子 5,000
千葉　仁子 3,000
月本　昭男 10,000
辻　建 3,000
辻井　武志 3,000
津村有紀子 5,000
土井　道子 2,000
中村　一義 10,000
林　博・純子 10,000
原田　和子 2,000
福居　幸子 5,000
丸山　是 2,000
三輪　清子 2,000
三宅　洸子 1,000
矢島　洋子 10,000
山口　徹 3,000
山田　ミワ 10,000
山本　憲兄 5,000
合計35件
金額 180,000

ひとつぶ献金

生田教会 74,200
荻窪教会 60,900(2)
上大岡教会 10,000
川和教会 25,000
まぶね教会 18,000
横浜二ツ橋教会 23,800
合計7件
金額 211,900

事務局だより

１０月１９日心配していた天候も雨にはならず、農村伝道神学校オープンキャンパス「農伝デー」は大変盛況でした。当日は本田栄一先生の記念講演があり、礼拝堂が満席で資料が足りなくなる程でした。今回、この貴重な講演の一部分になりますが、後援会だより巻頭でお書き頂きました。

また少し寒空でしたので、農場で採れたさつまいもの熱々焼き芋や、カレーライス、フランクフルトが評判でした。来年は是非お出かけ下さい。

後援会グッズリストのカタログを同封いたしました。クリスマスカードや、プレゼントのお品も色々あります。どうぞご覧いただき、ご注文下さいますようお願いいたします。このグッズは、皆様から頂いた貴重な献金を届ける中で、ほんの少しでも、学校にある自然の材料と制作奉仕による品を作り、お買い上げ頂き献金に加えたいと願っています。また、このグッズで農村伝道神学校を宣伝し、覚えて頂けたらとも願っています。

下記に２０１３年１０月３１日現在の献金、グッズ販売等の収入状況をご報告致しました。大変厳しい状況が続いております。どうぞ引き続きお支え下さいますよう宜しくお願い致します。

良いクリスマスをお迎えくださいますように。

（本校教師、後援会実務委員　三宮　千枝）

2013年度後援会会計報告

2013年4月1日～2013年10月31日現在

収　入（献金・他）					前年同期比（%）
献金区分	2013年度(4月～10月)		前年度同期		
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
後援会費（団体）	17	296,000	31	779,448	38
〃（個人）	127	1,108,500	150	1,121,500	99
記念日他献金（団体）	62	1,023,608	61	1,042,211	98
〃（個人）	86	721,500	86	1,585,750	45
ひとつぶ献金（団体）	21	702,750	26	638,570	110
グッズ		125,650		125,500	100
合　計	313	3,978,008	354	5,292,979	75%

発行　農村伝道神学校後援会
会　長　島しづ子
事務局長　古川力也

〒195-0063 東京都町田市野津田町2024
TEL 042-735-5775　FAX 042-735-5711
E-メール：noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www11.ocn.ne.jp/~noden/
振替番号　00120-6-24418